



阪神電気鉄道株式会社

～ 脱炭素と地域経済成長の同時実現に向けて ～

阪神タイガースファーム施設の移転（兵庫県尼崎市） 『ゼロカーボンベースボールパーク』の誕生

阪神電気鉄道株式会社 常務取締役 スポーツ・エンタテインメント事業本部長 上戸 健司

1. 事業紹介

- 会社名 阪神電気鉄道株式会社
- 設立 明治32（1899）年6月12日
- 営業開始 明治38（1905）年4月12日
- 本社 大阪市福島区海老江1丁目1番24号
- 資本金 29,384百万円（2025年3月31日現在）
- 営業収益 84,323百万円（単体）※2023年度
- 従業員数 約1,500名（出向受入社員などを含む）
- 事業内容 都市交通事業（電気鉄道業 48.9km）／不動産事業（商業施設、オフィスなど）
スポーツ・エンタテインメント事業（野球場、レジャー施設などの運営）
情報・通信事業（鉄道通信システムの開発・販売など）／その他事業（ホテルの運営など）

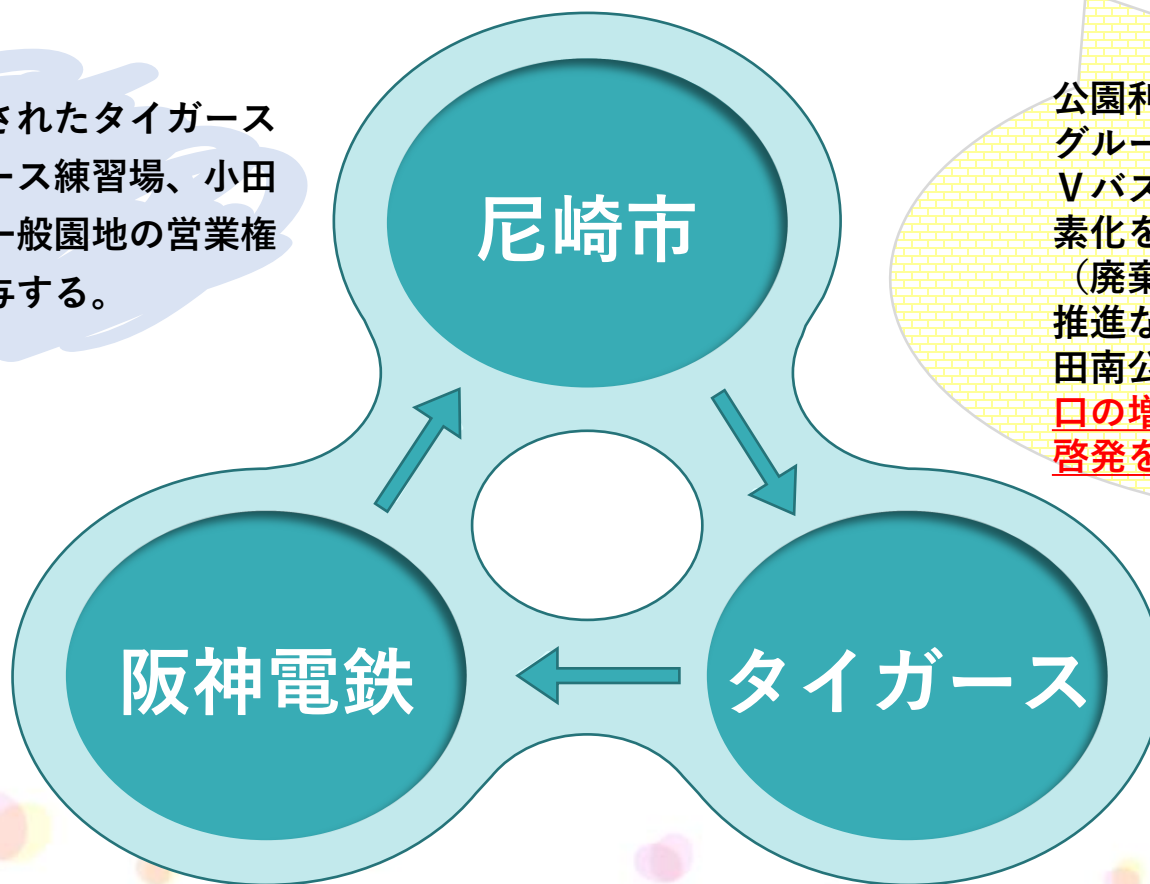


2. はじめに

2021年5月、尼崎市・阪神電気鉄道(株)・(株)阪神タイガースの三者で、小田南公園の整備・管理運営の実現に向けて、基本協定書を締結。交流人口の増加による経済効果や尼崎市南部地域の活性化とともに、スポーツ振興の推進や観光の目玉施設として、小田南公園への阪神タイガースファーム施設の移転、2025年の開業に向けて関係三者で相互に協力しながらプロジェクトを推進。

尼崎市は、建設されたタイガース野球場、タイガース練習場、小田南公園野球場、一般園地の営業権を阪神電鉄に付与する。

阪神電鉄は、小田南公園北側の公園供用部分にタイガース野球場、タイガース練習場、小田南公園野球場、一般園地を建設し、尼崎市に寄附する。
小田南公園南側の公園未供用部分に、室内練習場、選手寮兼クラブハウス、駐車場等を建設する。



公園利用者や周辺住民に対して、阪神グループと協力して駅の脱炭素化、E Vバスの導入など来場時の交通の脱炭素化を進めることや、脱炭素の取組み（廃棄物発生抑制及びリサイクルの推進など）をPRすることにより、小田南公園を含むエリア全体での交流人口の増加による経済効果と脱炭素普及啓発を同時達成を目指す

阪神タイガースは、建設されたタイガース野球場、タイガース練習場、室内練習場、選手寮兼クラブハウスを専用使用する。

3.『ゼロカーボンベースボールパーク』の施設概要について

2025年3月に「ゼロカーボンベースボールパーク」が誕生。ファーム公式戦を開催するタイガース野球場「日鉄鋼板 S G L スタジアム 尼崎」、タイガース練習場、室内練習場、虎風荘（選手寮）が新設されたほか、一般市民が利用が可能な「小田南公園野球場」や、くつろげる広場、散歩やランニングができる周遊コースも整備。これらの施設では、太陽光発電・蓄電池を導入するなど、様々な脱炭素の取組みを進めている。



4.『ゼロカーボンベースボールパーク整備計画』について

2022年4月26日、第1回脱炭素先行地域に『ゼロカーボンベースボールパーク整備計画』が選定される。

脱炭素先行地域の対象 小田南公園内のタイガース野球場等、大物公園、大物川緑地、阪神電車尼崎市内6駅、尼崎車庫

主なエネルギー需要家 公園緑地3か所、小田南公園内の野球場、虎風荘、室内練習場、阪神電車尼崎市内6駅、尼崎車庫

共同提案者 尼崎市、阪神電気鉄道株式会社

駅舎・車庫への太陽光発電・LED設備の導入

スタジアム最寄りの大物駅をはじめ、尼崎市内6駅において照明のLED化、太陽光発電設備を導入。今後尼崎車庫内にも導入、設置を予定。

路線バスへのEV導入

鉄道網が発達している尼崎市内東西の移動に比べて交通手段が限定される南北の主要交通手段である路線バスへEVを導入。

駅舎補助電源装置の導入

車両のブレーキで発生する回生電力を有効活用し、駅舎のエレベータやエスカレータ、照明等で再利用。

スタジアム・パーク内での環境への取り組み

ゼロカーボンベースボールパーク内でも様々な環境への取り組みを実施。詳細は次ページを参照。



脱炭素先行地域
兵庫県尼崎市

脱炭素先行地域評価
委員会において
評価された点

- プロ野球球団と連携したスポーツによるまちづくり・観光振興・地域活性化と脱炭素の両立を目指した提案であり、実現可能性やアナウンス効果があること。
- あわせて動線となる鉄道駅における脱炭素化やEVバスの積極的な導入を行うこと。

5.『ゼロカーボンベースボールパーク』の主な環境への取組み

SGLスタジアム

基準一次エネルギー消費量より 43%のエネルギー消費量を削減し、「ZEB Oriented」の認証を取得

室内練習場・虎風荘

基準一次エネルギー消費量より 77%のエネルギー消費量を削減し、「Nearly ZEB」の認証を取得

太陽光発電・蓄電池による自家発電（年間約73万kWh）・自家消費で不足する電力について、クリーンセンター（ごみ焼却施設）での廃棄物発電の活用し、全ての事業活動を実質 CO2 排出量ゼロで行う。また徹底した省エネ化により、年間約1,000トン以上のCO2削減を見込む。その他様々な環境への取組みにより、ゼロカーボンベースボールパークを実現する。

1 太陽光発電・蓄電池の導入

スタジアムで1年間に使う80%以上を発電している



太陽光発電・蓄電池の導入

2 省エネの徹底

建物に必要なエネルギー消費量の削減に取り組んでいる



省エネの徹底

3 クリーンセンターの廃棄物発電の活用

クリーンセンターで発電されたCO₂排出量ゼロのクリーンエネルギーを活用



クリーンセンターの廃棄物発電の活用

4 地球にやさしい製品の活用

球場内で使用する製品には、バイオマス素材やリサイクル素材などの地球にやさしい素材を活用



バイオマス製品の活用

5 ペットボトル・プラスチックカップの回収・リサイクル

球場内で発生したペットボトルやプラスチックカップを分別回収してリサイクルしている



ペットボトル・プラスチックカップの回収・リサイクル

6 雨水・井水の活用

貯まった雨水を、グラウンドへの散水やトイレの洗浄などに使用している



雨水・井水の活用

7 緑豊かな公園へ

小田南公園内の樹木の一部を、新しい公園内に移植している



緑豊かな公園へ

8 公共交通機関を利用した来場の呼びかけ実施

CO₂排出量が少なく、環境にやさしい移動手段である鉄道やバスでの来場を促している



遠くへの外出は公共交通機関で移動しよう！

9 太陽光発電量や二酸化炭素削減量の見える化

二酸化炭素削減量の見える化を推進することで、環境保全活動に対する関心を高める



太陽光発電量や二酸化炭素削減量の見える化

“たいせつ”がギュッと。
Hanshin Group

